第12号 昭和62年 1987

会 報

にしきうら





高知県立須崎工業高等学校同窓会

人

ご	挨	拶	長	清	家		寬1
創立	五十周	3年にそなえて校	長	森	圌		濟 2
退職	ご挨拶	3 (思い出すままに)前教	頭	竹	村	袭	典 3
学	校 近	况教	頭	森		举	雄4
本年	度並ひ	『に最近の進路状況進路指導部	長	中	山	Œ	彦 5
アメ	リカタ	〔分になって思い出した母校(京滋支部だより)	••••	広	瀬		理 5
花と	緑の大	:阪へどうぞ(大阪支部だより)	••••	松	本	忠	雄6
Гの	うぜん	.かずらの朱の色」(関東支部だより)	••••	高	柢	朋	子7
第八	回高知	支部総会開催(高知支部だより)	••••	横	Щ	Ĺ	水 8
陸船	会の歌	: (高知支部だより)	••••	福	永	徳七	郎9
支部	長と私	、(窪川支部だより)					
こん	な事や	ってます(須崎支部だより)	•••••	坂	本	定	浩10
ソフ	トポー	ル部活動報告					
	二年連	統国体出場決定津野	隆・	伊	藤	Œ	孝11
野球	部活動	報告					
	手作り	のスコアポード植 田 豊 :	年・	吉	本		伸12
		η					
		决算報告					
昭和	62年度	予算			•••••	•••••	14
終身	会費納	入者名			•••••		15
숲		則			•••••		21
各種	証明証	の発行について					
组组	i 72	却					

ご挨拶

同窓会長 清 家

寛

同窓会の皆様お変りありませんか、お伺い申し上げます。

祥でご活躍のこととお慶び申し上げます。はこは、この御先輩の方々も含め同窓会の皆様にはご健が、この御先輩の方々の中には長年の勤務を終えられてます。同窓の方々の中には長年の勤務を終えられてます。同窓の方々の中には長年の勤務を終えられてます。

することができました。さて、ここに会報「にしきうら」第十二号を発刊

本会報の発刊に当りましては、事務局の先生方には校務の中大変なご努力を賜わりその御苦労に対しは校務の中大変なご努力を賜わりその御苦労に対しは校務の中大変なご努力を賜わりその御苦労に対しは校務の中大変なご努力を賜わりその御苦労に対しは校務の中大変なご努力を賜わりその御苦労に対しは校務の中大変なご努力を賜わりその御苦労に対しな校務の中大変なご努力を賜わりるの御苦労に対しな校務の中大変なご努力を賜わります。

先生は、同窓会の運営につきましても高いご見識が、本年三月をもって定年で退職されました。が、本年三月をもって定年で退職されました。失に、既にご承知の方も多いと思いますが、永年

心から感謝と御礼を申し上げます。しますと共に、先生の永年のご指導に対しまして、高知市にご在住ですので今後共よろしくお願いいたをもって変らぬご指導を続けて下さいました。幸に

竹村教頭先生の後任には、まことに得難い森峯雄教頭先生をお迎えすることができました。森教頭先生は、永年に亘って高校教育に取組まれ高いご見識と、深い情熱をお持ちの方でございます。その上、須工ご出身の同窓会員の先生ですので、森岡校長先生と力を合されて、諸先生方共々に母校の発展にご努力下さるとのお話を承り、誠に有難い森峯雄教頭先生をお迎えすることができました。

えます。
なます。
なます。
なます。
なます。
なます。
なます。
なまずの通り四年後には創立五十周年を迎知に高まってゆくと信じております。

にはどうかよろしくお願いいたします。行事に御協力申し上げたいと思いますので、その節しては、会員の皆様方の御賛同を得て、母校の記念しては、会員の皆様方の御賛同を得て、母校の記念んで行かれると承っております。

すく、ご活躍されますようお祈り申し上げます。は次回にご連絡申し上げます。目途が立ってきました。具体的なことにつきましては次回にご連絡申し上げます。最後になりましたが、経済状勢のきびしい折柄、最後になりましたが、経済状勢のきびしい折柄、よい回にご連絡申し上げます。



創立五十周年に

校县森 岡

清

では、お変りもなくご健祥にお過 にしのこととお慶び申し上げます。 とうか、まだまだきびしい情勢は続くというりますものの、まだまだきびしい情勢は続くというりますものの、まだまだきびしい情勢は続くというりますものの、まだまだきびしい情勢は続くというがます。

ご退職されました。 頭先生が、本年三月をもって定年をお迎えになり、う長きに亘って教鞭をおとりいただいた竹村義典教育じますが、本校で昭和二十二年から四十年間といるて、はじめに、すでにご承知の方も多いことと

先生の、誠実で円満なご人格は、お教えを受けた

竹村教頭先生の後任には、本校機械科の昭和二十います。ご退職というには余りにも残念なことでございますが、ご定年とあれば、これも止むをえないさいますが、ご定年とあれば、これも止むをえないさいますが、ご定年とあれば、これも止むをえないさいますが、ご定年とあれば、これも止むをえないるが、ご定年とあれば、これも止むをえないます。

七年卒業生である森峯雄氏が治任されました。

今後は、二人が力を合せ、在職の先生方の一層の良き相談相手となって頂き、誠に幸いと存じます。熱を傾中されているという、竹村前教頭先生同様、熱を傾中されているという、竹村前教頭先生同様、点い熱意を持たれ、今回は、母校教頭として

森教頭先生は、高校生の教育に、殊のほか高い見

あたります。すように、昭和六十六年は、本校の創立五十周年にすように、昭和六十六年は、本校の創立五十周年にさて、前々から、この会報にも度々出されていま今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。ばと話しているところでございます。

ご協力を賜わりながら、須工の発展に努力しなけれ

事を計画しているところでございます。 あと四年ということで、学校では、盛大な記念行

た事業が計画されています。同窓会名簿の発行など、これまでとは一段と飛躍し同窓会名簿の発行など、これまでとは一段と飛躍しその中で、同窓会としましては、校旗の新調や、

たと考えております。

と目途が立って、今年はその実現に向って話が進ん旧校舎跡へ建立予定の記念碑につきましても、やっまた、ここ数年間計画してまいりました、糺町の

でまいりました。

計画を立案する予定でございます。

計画を立案する予定でございます。

お務局長の島崎先生の永年にわたる並々ならぬご苦事務局長の島崎先生の永年にわたる並々ならぬご活います。

がら感謝に耐えない気持でございます。
とになっていまして、学校としましても、今年度頭とになっていまして、学校としましても、今年度頭とになっていまして、学校としましても、今年度頭を前者のようならぬご苦事務局長の島崎先生の永年にわたる並々ならぬご苦事務局長の島崎先生の永年にわたる並々ならぬご苦事務局長の島崎先生の永年にわたる並々ならぬご苦事務局長の島崎先生の永年にわたる並々ならぬご苦事務局長の島崎先生の永年にわたる世界の大学に対しています。

一方、学校内につきましては、今年も入学志願者宜しくお願い申し上げます。申し上げることにもなりますが、その節にはどうぞ申し上げることにもなりますが、その節にはどうぞ五十周年が近づきましたら、また何かとご無理を

勉学にスポーツに励み、校下の評価も良くなってき生徒達も全体的には、須工の良き伝統を受け継ぎ、近年にない好況でありました。足でしたが、造船、化学では、全定員を満たすなど、数は定員を越え、入学者は、電気科で定貝に三名不

これら学校現況につきましては、森教頭先生が詳れ、誠に嬉しい事でございます。の活躍が目立ち、相撲部が復活するなど活気が見ら特にスポーツでは、ソフトボール部、サッカー部

の程お願い申し上げます。しく後述してございますので、どうか宜しくご一読

折柄、同窓会の皆様方の一層のご健祥とご活躍を心始めにも申し上げましたが、社会情勢のきびしい業等を中心にご報告をさせていただきました。素のは、五十周年を四年後にひかえ、その記念事

からお祈り申し上げます。

はじめとして、同窓会事務局の皆さん、とりわけ、



心職ご挨拶 (思い出すまゝに)

前教頭 竹 村 義 典

厚くお礼を申し上げます。厚情とご助力を賜わり、お世話になりました。同窓会の皆様、ほんとうに長い間、種々と暖いご

三六〇円でした。
三六〇円でした。
昭和二二年三月三一日付、月手当後の混乱期に安芸、前田先生と共に(公文姓)で赴後の混乱期に安芸、前田先生と共に(公文姓)で赴後の混乱期に安芸、前田先生と共に(公文姓)で

当時の須工は機械科と造船科で生徒約二○名、当時の須工は機械科と造船科で生徒約二○名、のと。結果は造船科五名で授業をしました。船は一○ノット、五○○○トン以下のものしか造られない占須下の日本はこれからどうなるのか分らない時代で江業学校への志望は少なく、中学校を廻って入学を勧誘、二年生になってから、好きな科へ進んで下さ勧誘、二年生になってから、好きな科へ進んで下さ勧誘、二年生になってから、好きな科へ進んで下さいと。結果は造船科五名で授業をしました。

六四○○名となり、日本国内のみでなく、海外でも地械、造船、化学工業、電気科の六クラス、定員はり、昭和四七年四月糺町より現校地に移転した時は、昭和四七年四月糺町より現校地に移転した時は国の柱として盛んになり、科の増設で校地が狭くな国の柱として盛んになり、科の増設で校地が狭くな国の柱として盛んになり、科の増設で校地が狭くな

一〇年一昔で云えば四昔圣った事こなりますので、誠に喜ばしい限りです。

の結晶だと敬意を表します。
一〇年一昔で云えば四昔経った事になりますので、

然し、この間種々な事がありました。新制高校となった昭和二三年七月の校舎焼失。焼け残り木を燃なった昭和二三年七月の校舎焼失。焼け残り木を燃造船科廃止の動きもありました。須崎高校との統合論、で復興資金をつくりました。須崎高校との統合論、で復興資金をつくりました。須崎高校との統合論、で復興資金をつくりました。野中健一郎教頭先生の校の運命を決めた事でした。野中健一郎教頭先生のだが、この間種々な事がありました。新制高校とご苦労も記しておかねばなりません。

では相撲部が全国優勝して提灯行列、県体総合優勝をは相撲部が全国優勝してたが、科学技術の進度の文化祭、教職員も一緒になっての校内大会等の度の文化祭、教職員も一緒になっての校内大会等の度の文化祭、教職員も一緒になっての校内大会等の度が文化祭、教職員も一緒になっての校内大会等の度が文化祭、教職員も一緒になっての校内大会等のになりました。

母校の伝統的良さを一言で云えば「和」だと思い ます。学校の伝統を守るのは同窓会しかありません。 竹下、田辺、清家会長を中心に、関東、中京、近畿、 竹下、田辺、清家会長を中心に、関東、中京、近畿、 作下、田辺、清家会長を中心に、関東、中京、近畿、 年PTAのバックアップもあり、親子二代目校長の 年PTAのバックアップもあり、親子二代目校長の 年のもと、八○名に及ぶ教職員が一丸と なって後輩の教育に取り組まれている姿は頼もしい なって後輩の教育に取り組まれている姿は頼もしい なって後輩の教育に取り組まれている姿は頼もしい なって後輩の教育に取り組まれている姿は頼もしい なって後輩の教育に取り組まれている姿は頼もしい なって後輩の教育に取り組まれている姿は頼もしい

加えさせてもらってと勝手に願っております。事に深く感謝します。これからは須工〇Bの一員になりません。須工だけで勤めを終えさせてもらったなりません。須工だけで勤めを終えさせてもらっためさせていただきましたが、果して自分は何をしてめさせていただきましたが、果して自分は何をしてめさせていただきましたが、果して自分は何をしていただきましたが、果して自分は何をしていたが残り、長く勤振り返りますと色々な思い出だけが残り、長く勤振り返りますと

職のご挨拶とします。皆様方のご多幸を心よりお祈りして不備ですが、退皆様方のご多幸を心よりお祈りして不備ですが、退さい。須崎工業高校および同窓会の益々のご発展とさい。須崎工業高校および同窓会の益々のご発展と

(昭和六二、九、三)

教頭

青少年の指導のために、今後ともお扶けを伏してお ましたが、皆様方の跡を追い、未来産業を担う後輩 の伝統と発展への重責に恐懼しながら半年を経過し だきました。皆様方の旧いご恩の数々を想い、本校 戴いて母校のお世話になるという三度の重縁をいた 今回は、熱意溢れる同窓大先輩の森岡清校長先生を 上げます。私事、後任として四月に着任致しました。 ます。皆様と共にご恩に深く感謝し、今後もお元気 生の謦咳に接し深甚のお蔭を受けられたことと思い 職されました。昭和二二年より同窓生の皆様が、先 大の足跡を残されて竹村義典教頭先生が今春停年退 で六四総体等でのご活躍をされますようお祈り申し 一十年の星霜を本校の教育全般にご献身され、多

員の上回り率で、前任の先生方のご苦労を拝察し、 現職員一同、 た女子生徒が一名化学工業科に入学、昨年以上の定 者があり、合格者は二三七名で五四年以来絶えてい そして新入生では一次二八〇名、二次一二名の志願 業生総数六六七二名(女子五二名)となりました。 学工業科二四名、電気科七七名の計一八九名で、卒 先任の先生方は、工業高校のメリットである実習 今春の卒業生は機械科六五名、造船科二三名、化 内容の充実に向って頑張る所存です。

願い申し上げます。

言葉をいただき、共に自信を深めたことでした。 発でもある点で最高であったと繰り返してお褒めの は施設の方から、数ある利用校の中で規律を守り活 実施しました。心配な時期もあった由ですが、今回 恒例の生徒会リーダー研修を県立幡多青少年の家で ます。集団教育として新企画の一年生宿泊訓練と、 清掃等の作業の場合も良い姿で協働するようになり 教育の手法を活かして細やかに面倒をみ、

れます。 感じられるのは、今後の歩むべき方向を示唆してく されますし、コンピューター関係部でも取組みが進 活したことは往時を想い特筆に価します。文化クラ になっていることは喜ばしいことです。相撲部が復 み、工業高校の特性を活かした文化活動の息吹きが 自の関わりを進めて、関連するクラブの発展が期待 ブでも、教科面の重視に伴って、造船部等は本校独 部より多数の強化選手が選出される等、活動が盛ん ンド準優勝、他好成績で、また六四総体に向けて各 は、ソフト、サッカー、柔道が優勝し、バレー、ハ 校夏期サッカー大会は第二位となりました。郡体で 第一位となり沖縄国体への出場権を獲得し、県下高 特活関係では、国体四国予選でソフトボール部が

停年退職されました。竹内先生は機械科長や製図の のご多幸ご活躍を祈念して、心からお礼申し上げま 任になりましたが、先生方のご労苦に感謝し、益々 松儀久、先生他長年ご勤務いただいた先生方がご転 きました。また、山川逸、金堂幾雄、片岡啓輔、吉 以下、 ご指導を通して、二四年間も黙々とお世話をいただ 人事では、竹村教頭先生に加えて竹内真一先生が 人事異動をご紹介します。

大西 崎高

敏幸

講採講

数社 社

金堂 中村 岡村 幾雄 栄俊 すみ 英 高岡高 小津高 南西 高 本田 深瀬

> **峯**雄 出男

> > (理) 宿毛高 丸の内高

野村真理子

明孝智年弘砂

機 英 仁淀高 東東 田村 国久

東 高知工 川淵 明弘 安夫

山川 上田 東川

北平地栄子 俊男

片岡

佐智 茂久 正実 機 時期新新

決定につきましては、今一層のご指導ご援助をお願 時代に心苦しいことではございますが、生徒の進路 いする次第でございます。 力する覚悟をしております。産業界大変容の至難の 以上の新進気鋭の先生方も加えて、校運躍進に努

いただきます。 皆様方のご発展とご多幸を祈念し、

報告とさせて

4

本 ・年慶雄びに 量遞 の進路状況

進路指導部長

中 Ш 正 彦

お慶び申し上げます。 卒業生の皆様方には、ご健勝にてご活躍のことと

日頃は、

後輩の就職等について、何かとご支援を

校生の就職試験の時期が早くなり、すでに解禁され 戯きまして誠にありがとうございます。 て、本校生徒も大多数の者が受験しておりますが、 皆様方、ご承知のことと存じますが、本年度は高

社をこす求人の時期もありましたが、五〇年頃のオ 母近の進路状況を簡単にご報告いたします。 高度経済成長期のおりには、本校でも、一五〇〇

ってまいりました。 イルショックで景気に陰りが見えはじめ、以来、不 の求人であり、高卒者の就職環境は非常に厳しくな 況で景気の低迷が続くなかで、最近は五○○社前後

態です。ただ各社とも、髙学歴者(大学、短大生)

なさって下さい。

年 度

59

60

61

械

気 電

計

科 别

機

造 船

化 工

生の進路希望状況を掲げてありますので、ご参考に

の採用を多くするような傾向にあって、髙卒者の採

特に輸出に依存する企業が多く、造船、 その原因は、貿易摩擦、円髙不況等によるもの

全国的に見ると、昨年からの求人の減り方はひど

時期と比べますと多少減ってはおりますが、さして 電気、自動車等の減り方が目立っております。 月十五日で三六八名の求人があっており、昨年の同 道され、心配されましたが、幸いに本校では現在十 昨年以上に厳しくなるだろうとテレビ、新聞等で報 今年の求人状況は、三年ごしの円髙不況もあって、

変りなく、	地区年度	年 度並 関西	びに過 大阪	去3年 東海	間の求 関東	人状況 中· 四国	. (会社 県内	数) 計		
就職希望者にとってはある程度選べる状	59	68	99	49	124	35	78	453		
著にと	60	86	94	55	137	31	59	462		
ってはあ	61	84	97	43	139	27	54	444		
る程度	62	61 (15)	87 (11)	27 (6)	116 (14)	22 (12)	55 (29)	368 (87)		
選べる状	62年度の求人は10月15日現在のもので、()内数字は内定者数 を示す。									

学 進

12

29

25

進 学

17

4

1

13

35

)内数字は10月15日現在での内定者数

3年間の進路状況

県 内

62年度3年生進路希望状況

県

就

59

58

61

就

27(15)

2(

5(

19(13)

53(29)

内 県

1)

0)

123 (87)

職

外

76

101

職

19(18)

6(5)

10(9)

35(26)

70(58)

96

外

県

定 未

その他

4

12

7

営 自

その他

4

1

2

1

8

過 去

生徒数

151

200

189

生徒数

67

13

18

68

166

用については相当手控えている様子です。特に大企 者もやや多い目で心配される面もあります。 昨年をやや上回っておる状態ですが、反面、 は、現在、合格者数が順調に伸びており、内定率も がため選考が随分厳しくなりました。幸いに本校で 業において、それが顕著に表われております。それ 不合格

> 京滋支部だよ ()

思い出した母校のこと アメリカ気分になって

昭和21年機械科一種卒業 広 瀬

りアメリカ気分になりますよ。ウエイトレスはアメ 遊覧船〝ミシガン〟に乗ってみませんか、ちょっぴ 同窓生のみなさん京滋地方に来られたら琵琶湖の

ございますので、なお一層のご指導、ご鞭撻をお願 も教職員一同一丸となって、頑張り努力する所存で

今後は、就職率一〇〇パーセントを目指し、私ど

次表に母近の求人、進路状況、および今年の三年

い申し上げます。

リカからやってきた陽気なピチピチ女学生達です。この遊覧船はアメリカはミシガン湖で活躍した外輪に再手シガン洲で選考され、日本に送り込まれて来る若人で、この期間遊覧船で働きながら一定のカリキュラムに従って日本の勉強をする仕組みになっているそうです。日本で学んだものがそのまま単位としてアメリカの出身校で通用するとあって、あちらでは結構人気があるようです。

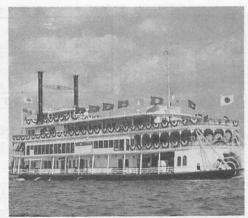
代は学校に居るより近くの工場や造船所に居た時間 語を習ったのも須工だったな、最初にABCから英 くれる世になった。時代の流れとは恐ろしいもの、 故だったかな?…etc、そうだそうだ私達の学生時 英語を習った。岡林先生は機械の先生だったのに何 語を習ったのは新階先生やったかな、岡林先生にも ていた。自分が最初に外人を目の前にしたのも、英 必要のようである。しかし外国人が日本語を話して ある。職業用語以外まで自由になるまでには時間が と流暢な日本語で問いかけてきました。日本語がわ テーブルにつくと青い眼のウエイトレスが近寄って 県のシンボル琵琶湖を訪れ、この遊覧船を知って一 滋賀県内の会社に再就職しました。この機会に滋賀 いや有難いものである。料理が運ばれてくる間考え 日乗客の一人となった次第です。船内レストランの かればらくである。色々聞いてやれと質問すると、 『その日本語よくわかりません』ともどかしくなる。 『日本語よくわかりません』ともどかしくなる。 彼女等の日本語上達度は早いが何しろ短い期間で 私は長年勤務した京都市内の会社を停年退職して

刺激になったように記憶します。

存知のように旧日本軍人のピストルは現在の警官の 並べてあった。時々アメリカ兵のMPが出入りして らそれまでだ』と目をくりくりさせながら注意をさ 生が『君達悪いことは絶対するな、アメリカさんの きなど機会を狙ったものでした。当時国語の西内先 とで、冒険心旺盛で箱からこぼれた棒状火薬を失敬 の入れかたで、ケースに落し込んであるだけだった。 アメリカ兵のそれはカウボーイのピストルそのまま ように取出す前にカバーを外さねばならなかったが いた。これが外国人を目の前に見た最初でした。御 いて機械棟にはピストル・小銃・砲弾が箱に入れて 日のように思い出されます。 れたものです。その時の真剣で表情豊かな情景が昨 ピストルはストンと落し込みぜよ、パンとやられた して燃やしたりするのが面白く、弾薬箱の移動のと この年頃の学生と言うものはいつの時代でも同じこ とりとめもないことでページをついやしてしまっ 終戦当時学校には、旧日本軍の弾薬が集積されて

が詰っているようです。

(おことわり)



佐覧船 "ミシガン

大阪支部だより

花と緑の大阪へどうぞ

昭和29年造船科卒業

松本忠雄

めったに電話に出たことがない。「お父さん電話よ」九月十二日の夜だったと思う。私は電話ぎらいで

が多く、ろくに勉強をしないまま終戦をむかえまし

ものです。お許しあれ。それにしてもやはり青春時が何とも楽しく、また少し若返るような気分になる

た。この年になると、若い時の事に思いをはせるの

はの声、何だろう今頃、ふと田舎の母親のことが思いらかぶ、「山田さんだって……」「山田、営業の出田から今頃何だろう……」「山田です御無沙汰と思って知話に出た。「松本さん山田です御無沙汰と思っているのでたのむよ、登き方は今までのを参考まっているのでたのむよ、登き方は今までのを参考まっているのでたのむよ、飛石連休はあいているんだって、傾の声、何だろう今頃、ふと田舎の母親のことが思娘の声、何だろう今頃、ふと田舎の母親のことが思娘の声、何だろう今頃、ふと田舎の母親のことが思娘の声、何だろう今頃、ふと田舎の母親のことが思いるかが、

「たのんだよ」と言った。「じゃあ又……」電話は切った。「近いうちに会いたいね、先日松村さんから君のこと聞いたよ」「近いうちに会いましょうよ」を輩のやさしい心遣いに感謝しながらも私は心ならずも引受た原稿のことで頭の中は一パイで、あまりずも引受た原稿のことで頭の中は一パイで、あまりが出なかった。 会長は私が暇があると思ったのか、声が出なかった。 会長は私が暇があると思ったのか、声が出なかった。

月も前から仕事の都合をつけ、夕方六時頃から夜のうたれました。二年に一回の総会の準備の為、何ケいる会計の松村さん始め、理事の方々の熱心さに心があってしまった。私が同窓会のお手伝いをするきっかけは、天辻鋼球の近森先輩が、私の会社に鋼球を入けは、天辻鋼球の近森先輩が、私の会社に鋼球を入けは、天辻鋼球の近森先輩が、私の会社に鋼球を入けは、天辻鋼球の近森先輩が、私の会社に鋼球を入けは、天辻鋼球の近森先輩が、私の会社に鋼球を入けは、天辻鋼球の近森先輩が、私の会社に鋼球を入けは、天辻鋼球の大力を開発している会計の松村さん始め、理事の方々の熱心さにの場が、対している会計の松村さん始め、理事の方々の熱心を関するといいといいました。

会に負けない、大総会ができるよう皆様の御参加を高校同窓会大阪支部の総会の年です。その時は博覧際花と緑の博覧会が開かれます。その年が須崎工業大阪も来年は総会の年です。会報をお読みになった同窓の方々の一人でも多く参加をお願いします。て帰ります。こうして一枚の案内状が届きます。「日も続きます。何人かの方々は家に持って帰ります。こうして一枚の案内状が届きます。「日も続きます。「日も続きます。何人かの方々は家に持って帰ります。」「日本の教理、あて名の整理から案内状の更けるまで名簿の整理、あて名の整理から案内状の更けるまで名簿の整理、あて名の整理から案内状の更けるまで名簿の整理、あて名の整理から案内状の更けるまで名簿の整理、あて名の整理から案内状の更けるまで名簿の整理、あて名の整理から案内状の更けるまでは、

えるとともに、緑豊かな、潤いのある都市の創造と文化の向上を広く世界の人々に訴で、花と緑を通じて潤いのある豊かな社会二十一世紀を展望し、国際的な協調のもと

を目的にする。国際博覧会条約に基く特別技術の進歩及び産業の活性化を図る」こと環境の形成、花と緑に関する知識の普及、

博覧会で、東洋で初めての大国際園芸博で

行動と基本方針

とするとともに、二十一世紀に向けて新しい広場、二、花と緑を取り入れた魅力ある都市環境創造の場果や可能性を展示する。果や可能性を展示する。

公園像を探求する。

会場とする。
一会場とする。
を四季折々に、昼夜を通して味わえるようなかさを四季折々に、昼夜を通して味わえるようなで、世界の多種多様な花と緑によってその色、形、

があふれるものとする。があふれるものとする。と場全体が活気と楽しさい、人間と自然の共生を祝い、生命の酸歌につなが

界の平和と繁栄に貢献する博覧会とする。世界の人々が語り合い、相互理解を深め、世る植物の役割の重要性に対する関心を高めるためる植物の役割の重要性に対する関心を高めるためた。生を含む生活文化を体験できる博覧会とする。 五、様々な園遊の場所と機会を提供し、世界の衣食

世話役一同心よりお待ちしています。

ここで花と緑の博覧会のことを同窓の方々に御案

機会に緑あふれる、美しい都市として生れ変ること緑のないコンクリートジャングル大阪が、これを以上となっています。

こし下さい。その時おめにかかりましょう。皆様、「大阪国際花と緑の博覧会」には大阪におを期待します。

関東支部だより

「のうぜんかずらの

昭和33年電気通信科卒業

大きな家がある。梅の花弁を型どったブロック塀は、角に、しっかりはしているが、もう大分古くなった私の家から二〇〇メートルほど離れた住宅街の一

添って淡いえんじ色の花が咲いているのが、何時の 頃からか目につき始めた。チョコレート色の家をバ なると、色褪せた緑が、その塀の上から顔を出す。 坪位はあり、色々な草木が植えてある感じで、 って良い程見えないのだが、多分、庭の広さは二十 夏の太陽の下でもいじける事なく、 ックに、緑の葉の間から見えるその花は、強烈な真 丁度背の高さ程もあるので、中の様子など全くと言 際目立つのは、二階迄伸びた柿の木で、その幹に しかも意外なほど優しく気高い感じで咲いてい 力強く、雄々し

はなくなるように思う。その花がそうだった。 揺れ動いた時、それはもう、唯のそれだけのもので く見逃していたものが、 心の在り場所と言うか、気の持ち方によって取り入 くなる。今迄見えなかったものが、見えたりもする。 れ方は随分違ったものになるのだろう。今迄何気な ところが、 うよりは、 思えば、 そういうところに惹かれたらしい。 品の無い色だと思っていたものがそうでな 、気持のちょっとした変化で、何かのきっ 私はこんな色は嫌いであった。嫌いと言 最初から眼中にない無視した色だった。 ふっと心にとまり、気持が

いる薄紫の小さな小さな花を、どんな生命も大切に 涼しい顔で優雅に揺れている。私は、今はこの花に せる風が吹き始めたのに、のうぜんかずらのその花 たいと、 の時がきっと来るに違いないと思っている。 ないにしても、ただの雑草としてむしり取られて せられてはいるけれど、来年か五年、 ひと夏の暑さなど何でもなかったかのように、 九月も半ばを過ぎ、朝夕それとなく秋を想わ いとおしい気持で見られるそういう出合 十年先か分

高 知 支 部 だ ょ ()

回高知支部総会開催

昭和28年機械科卒業

横 III 寬 水

六時半から、高知市の山内会館で六十名が出席して ひらかれた。 同窓会高知支部第八回総会は、 八月十三日、 午後

生〇B、 として(西川良治、久正一、村木威、竹村義典以下先 中西安男副支部長 植田豊年先生が出席)各氏を代表して森岡 32 M の司会で開会し、来賓 又同窓会本部

M)を選出。 事(26M)、吉本義則(28 を代表して清家会長が 挨拶された。 議長団に汲田信男理 六一年度

の事業報告と六二年度

0

事業計画は竹内良一

支 部 支部長 (25M) が、六 計監査が、それぞれ報 監査報告は森 計 (27 M) が、 年度予算は井上健弘会 一年度会計決算と六二 久敬会 又会計

> 記念行事成功のため高知支部も積極的に協力してい む。又母校旧校舎跡への記念碑建立と開校五十周年 クラス別に横断的に調査しながら名簿作成にとりく と。したがって今年度は役員、幹事を中心に同級別 休業にともなう移転・不明が多くてできなかったこ 事業計画では会員名簿の作成が造船など不況下の ことなどが決定された。

部も独自の財政活動が必要とされる。 行事が終るまでストップされることになり、 予算では本部からの配分金が明年度から開校記念

野球部へ応援歌・生姜ソーメンなど贈呈

懇親会は在学の想い出や近況の話など交流がふか

良治(教員〇B、現西川製油所社長)の開発した生 計四七、 ド・イッチ・マンの仮装姿でカンパを集めて回り合 S)と横川両氏で合唱すると、森 久敬監事がサン 長の決意表明がされるなど和気合々のうちに宴がふ 諺作曲の須工野球部応援歌が贈呈され(植田野球部 姜入りソーメン二○k。 又、森 久敬作詩、林 のためカンパを…」と懇願の挨拶がされ「マチのサ められたが、特に野球部後接会長の横川寛水副支部 かまった。 ンド・イッチ・マン」の替え歌を福永徳七郎理事(25 (28M)から「みなさんの財布をはたいて野球部 〇〇〇円を植田野球部長に贈呈。又、西川

総会時期は再検討

場所を設定し試みたが、八月十三日は盆の時期でも 会は再検討する必要がある。 せよう…とのネライもあり、 、他校の同窓会のように総会の時期を固定化さ 「涼しくなってから」の意見があり、 昨年、 今年と同日時、 明年度総

、提案され、

東京・新宿郊外の住宅地にて)

歌

昭 和 25 年造船科卒 福 徳 七 郎

雅諺編曲によるものです。 章師(岳洋) の二曲が出来ましたので、 があるので省略し、 右二曲はこの七月十八日の第八回陸船会総会の席 発表されました。まず『陸船会の歌』は、桑原 期同窓、 今度 陸船会のことは既 森久敬 『陸船会の歌』『陸船哀歌』 ご披露いたしましょう。 (仰天楽) に書いたこと

陸船会だけであろうと 会の歌を持っているのは全国広しと言えども、 どえらい贈物を陸船会に下さったもので、 頼すると五〇万円は軽いと言うわけで、 とを言うとなんですが、 身の音楽家です。その林氏が、 小オーケストラ風の軽快な曲であります。 林氏は岳洋先生の甥でラテン音楽の専門家、 森仰天楽の作詩が生きて出来たのがこの歌で 音楽評論家として活躍しておられる土佐出 い、これ程の編曲を専門家に依 同気を好くしている次第 岳洋先生の原曲を編 岳洋先生は また同窓 お金のこ 我が ヤマ

信のある同窓有志の吹き込みをお願 曲のテー いるのです。楽譜と歌詩を添えておきますので、 好意で立派な編曲になるであろうと、 陸船哀歌』 当方にあります。 の方も 近々中に林雅諺氏のご いしておきます 同期待

ことを切望してやみません。 しゃ、 やっちゃろう」と言う有志の現われる

お問い合わせは 高知市南宝永町16-26 福記を記した) は 桑原先生は十三年前に森が東京で探し出した) は 桑原先生は十三年前に逝去と、同窓本部機

同窓本部機関誌に発表さ

n

82-07-7

陸 会の 船 ... 10.5

会 0 林森桑

何時いつまでも灯をともそう 同期の絆と思い出に しまった造船科 をに上った造船科 か

ついつい手が出たフリーハン明いたラインがすれ違いで水線のミドショップ 戦 終った翌日 つい手が出たフリーハンド

=

陸

74

愛する須工 11 Hr . 4

本銃担いで浦ノ内 春夏秋冬仏坂 四キロ六キロ強行軍悪名高き教練は らない

から

大平洋に波高し を富士ヶ浜辺の白砂を 富士ヶ浜辺の白砂を ない染めるさざ波や

179

船 哀 歌 i i i i ار آر دار آر

き徒動員喰わされて 学徒動員喰わされて

陸船会のゆりかごよ 須工造船生まれたり 須工造船生まれたり

桑森原

原仰天楽

窪 JII 支 部

ょ

6)

和24年機 械科一 私 種 卒業

同じである。どちらが若く見えるか、それは言はな いことにする。 支部長と、私はずい分と長いおつき合いである。 川添泉氏は、私より二期先輩であるが、 友人は第二の自己である」………。 年齢は

問題では卓越した見識をもっており信念の人でもあ 強力なプレーンでもある。 にも、立派な業績を築き、 を積み重ね、窪川町で事業を起し、 る。有名な原発町長、 その泉やんは、 須工出身の賛同者は多い。 中土佐町 藤戸 今や窪川町では名士であ 進氏 藤戸先輩は、 の出身だが、 (昭 21 社会的、 |種三期) エネル 卒業後努力 個人的 ギー 0

う。酔いしれるにしたがい、二人は、 ともある。 気合いが入ってくる。 ているが、 殆んど毎日飲んでいる。 部切除もした。而し、 泉やんは数年前腰痛で手術をした。 泉やんとくらべても、 世情に怒り、 私も世間では強いと言はれ お酒は、 どちこちないと思 今でも相当に強く 祖国を憂うるこ 又 だんだんと、 胃潰

で大いに損をする。 四人が集まると、先に酔ったふりをしなければ、 真三さん(昭21 中村市在住の吉村功さん だいたい似たりよったりの性格だ。 種三期 B (昭21 仲の良い 種 グル だから此の 1

呉れた方に、堀渕末喜さんと言う長老がおりました。 ほれろ」の人生三ぼれ主義でございます。誠に味わ ように聞かされるご挨拶がございました。「一つ、 す。我々は、堀渕学校の校長とよんで、尊敬してい 髙幡地区で年配の方ならたいがいご存知かと思いま れよう、恥かしく思います。 れてほれてほれぬいたが、今だに私は気まぐれなほ いのあるお言葉でございます。他の先輩三人は、ほ 女房にほれろ」「二つ、仕事にほれろ」「三つ、家に ました。祝いごとなどには必ずかけつけて、決った 此の四人が須工を卒業し社会に出て、面倒を見て

りで、どうにもサマにならないが、それでも理屈を 伏がはげしく変化に富んでいる。ミスショットばか なければならない。戦友は、いたわり、はげまし合 元気だ。だから必ず二人は同じパーティを組んでい なもので、一人がおかしくなれば、一人はすこぶるいる二人には、時々、足にくることがある。不思議 ブである。此処は全国屈指の山岳コースであり、起 る。コースは、だいたい地元の髙南カントリークラ わなければならないから。 つけて、懲りずにがんばっている。腰痛を患らって ところで私と泉やんは、時々ゴルフを楽しんでい

愛い。泉やん夫婆は今、お孫さんの独占争だつで、 男夫婦の子と、同じ町内へ嫁いだ娘さんの子です。 さん一人の時は「奥さんに似て美男子」だと言うこ のおるときは「おまんによう似ちょる」と言い、奥 ンシップの自宅帰りはルール違反です。 私は泉やん おらんなる」と奥様はこぼしている。こっそりスキ しのぎを削っているようです。「仕事の合間にすぐ 二人のお孫さんとも、のびのびと良く育ち本当に可 泉やんには、最近お孫さんが二人できました。長

> 人のうれしそうな顔は気持ちが良い。 とにしている。心配りに気をつかいます。而し、二

私のようなかつての不良学徒も、先輩の引立により ている。後継ぎの長男が立派にやっているから安心 れた。今はおだやかで充実した日々をエンジョイし ればやけどをする。だから目をむいて前進だけだ。 今まで何とかやってこれた。 くされ縁と思って、こ 支部長も、私も、四捨五入すればまもなく還歴。 若い時代の泉やんは、常に前向きの姿勢で圧倒さ 不動明大王は、背中に炎を背負っている。後退す

をもってよかったと思う。 れからもよろしくたのみます。 **窪川支部を結成して四年。泉やんが支部長で、私** 「よき友人のない人間は、 半人前」私はよき友人

りと活性化に、とり組みたいと支部長は言う。 は必ず総会を期し、課題の幡多支部との連携、 と国枝幸治さん(昭22二種四期)が副支部長。当初 の気勢は上がったが、やがてしりすぼみ。今期末に

惜しみなく応援したいと思っております。

須 崎支部 だよ ()

昭和54年機械科卒業

こんな事やつてます

定

浩

りましたが、卒業生の皆様方には、増々御健勝のこ ととお慶び申し上げます。 秋も深まり、朝晩の冷え込みも厳しくなってまい

していましたが、雨で中止となり、七月二十六日に

でしょうか? さて皆様「鳥人間コンテスト」というのを御存知

曜日に行われ、琵琶湖水面上十メートルに特設され たが、プラットホームを離れるやいなや、琵琶湖に にし、四月の図面審査で約二十倍の難関にパス。機 思い、放送局に問い合わせて九回大会に挑戦する事 たブラットホーム上から飛距離を競う大会のことで、 く、どの様に作っていいのかわからず苦労しました。 体を作りましたが、何 分初めての事で材料知識もな 八月か九月に木曜スペシャルにて放送されています。 ってしまいました。 「ポチャン」と音を立てて、九・一五メートルに終 この放送を三年前第八回大会を見て出場したいと 滋賀県彦根市の琵琶湖を舞台に、毎年八月第一土 大会前夜は殆ど寝ず機体を作り、本番に望みまし

チーム名も「土佐アドベンチャーグループ」と命名 し、私が会長になり、十数名でグループを結成しま そして今年こそはと、十一回大会に挑戦しました。

りました。今回は人数も多く、前回の経験もある為、

四月の図面審査に合格すると、すぐ機体製作に入

強度不足で、何度か作り直したものもありました。 リフィルム、物干竿、自転車、ワイヤー、アルミパ わりとスムーズに出来ました。 かかった材料もあり、また、製作中に切り間違いや キログラムになりました。見付けるだけで一ヶ月も イブ等で、材料費、約八万五千円、重量四十三・五 ブは発泡スチロール、その他の材料はバルサ材、ポ 主翼桁はアルミ角パイプ、二桁樹造で、異断面リ 大会二週間前の七月十九日に、テスト飛行を予定

体育館にて組み立てテストを行いました。数ヶ所修体育館にて組み立てテストをしたところ、の力が加わる為、逆転スリップクラッチが働きプロの力が加わる為、逆転スリップクラッチが働きプロの力が加わる為、逆転スリップクラッチが働きプロペラが思う様に回転せず困りました。数ヶ所修体育館にて組み立てテストを行いました。数ヶ所修

朝から組み立てる事にした。 が強く機体を組める状態ではなかったので、次の日 年はスタッフも多く、機体重量も四十三・五キロの を四人で運んで、苦労した事が頭をよぎったが、今 後十二時半頃会場に着き、 空機製作所を出発した。途中淡路島を通り、 った。二年前、ほとんど同じ所から五十キロの機体 から三百メートル以上も離れた所しか空いていなか 体組み立て場所を探したが、なんとプラットホーム トはプロペラ機部門二十三番に決まった。次に、機 終え三台の車に関係者十四人が乗り込み、 そしていよいよ七月三十日午後十時頃、荷造りを 何とかなると思い、そこに決定。この日は風雨 すぐ受付を済ませフライ 田ノ地航 翌日午

大会当日、雨はほとんど止んでいたものの、風は大会当日、雨はほとんど止んでいたものが、質問や写真ぜめに合った。 プがらしかったのか、質問や写真ぜめに合った。 でしていよいよブラットホーム上。機体の搬入方でしかったのか、質問や写真ぜめに合った。 そしていよいよブラットホーム上。機体の搬入方でしかったのか、質問や写真でがいたったのか、質問や写真でがいたった。 かった ので でいた のの、風にあおら強かった。朝七時から組み立てを開始、風にあおら強かった。朝七時から組み立てを開始、風にあおら強かった。朝七時から組み立てを開始、風にあおら強かった。 明本はほとんど止んでいたものの、風は大会当日、雨はほとんど止んでいたものの、風は大会当日、雨はほとんど止んでいたものの、風は



土佐アドベンチャーグループの夏は終った。土佐アドベンチャーグループの夏は終った。とはアドベンチャーグループの夏は終った。と佐アドベンチャーグループの夏は終った。
土佐アドベンチャーグループの夏は終った。
と佐アドベンチャーグループの夏は終った。

第十一回大会機体要目付を頂きまして、誠にありがとうございました。また、大会出場に際しまして暖かい御支援、御寄回こそは頑張りたいと思っております。

――V先尾翼型人力プロペラ機

縦横比—一五·九

定だったので非常に残念でしたが、これにこりず次

年振り二度目のⅠ部優勝をしました。

新一年生を加えて臨んだ春季大会ですが高知農校

今年の機体は自信があり、五十メートルは飛ぶ予

翼面荷重——三·四% 総重量—九四·五kg

直 径―三・五五m回転数―一三五rpm

九・三一m

二年連続国体出場決定プランフトボール部活動報告●

部長・ローチ伊藤 正孝監督津野 隆

西地区高校男子ソフトボール研修会に参加して、二新チームは昨年秋に結成し、県体優勝・全国大会出場を目標に冬の苦しい練習に頑張ってきました。春には愛知県刈谷市の豊田自動織機にて合宿をし社会人チームとの練習試合をつうじて技術力・精神力の向上を計りました。また引続き、大阪で開催された関チームとの練習試合をつうじて技術力・精神力の向上を計りました。また引続き、大阪で開催された関土を計りました。また引続き、大阪で開催された関土を計りました。また引続き、大阪で開催された関連を報告された。

一回戦、小築紫分校を八対○(コールド)、二回戦

練習試合をこなしていよいよ最大の目標としているしい練習に取組み、また実践経験をつむため多くの校に敗れてしまいました。この大会を教訓に益々厳椋に敗れてしまいました。この大会を教訓に益々厳高知西校、大月分校を下したものの準決勝で宿毛高

面積長

二六·七m 上六·五m

事になりました。 事になりました。 事になりました。 事になりました。 事になりました。 事になりましたが、四国インターハイに参加出来る かため全国インターハイ行きの切符を得ることは出 のため全国インターハイ行きの切符を得ることは出 のため全国インターハイに参加出来る かいましたが、進決 を六対一と破り、順調に勝ちあがりましたが、進決 を次対一と破り、順調に勝ちあがりましたが、進決

七月二十二日から愛媛県松山市でひらかれた四国インターハイでは、一回戦、松山商業(愛媛)を二対一、二回戦、貞光工業(徳島)を十対一と下し、対一、二回戦、貞光工業(徳島)を十対一と下し、対一、二回戦、貞光工業(徳島)を十対一と下し、対別の、と破り、四国インターハイ初優勝を果しました。

業、山田高校、岡豊高校をくだし、決勝戦では学芸すぐ後に行なわれた国体高知県予選では、伊野商

飾りました。 これにより本校を中心 とした高知県選抜チーム とした高知県選抜チーム 監督と選手十名が選ばれ ました。八月末に行なわ れた四国子選も突破し、 十月の沖縄国体に四国代 表として参加することに なり、現在練習に励んで おります。

ての練習に励んでおりま上記国体の練習と平行しるて新チームですが、

て初優勝を飾りました。は高知農業、大方商業、学芸高校、清水高校を下しは高知農業、大方商業、学芸高校、清水高校を下しす。九月の郡体では連続優勝をし、また秋季大会で

とはいえチーム作りはまだまだこれから、課題も多く、十一月に春の全国選抜大会の切符をかけて行なわれる冬季大会(新人戦)や来年の県体(インターハイ予選)にむけて厳しい練習に取組んでいます。また、試合に勝つ事のみを目的とするのではなく、挨拶等の礼儀や、団体競技を通じてのチームワーク接び等の礼儀や、団体競技を通じてのチームワークをかけて満したいと思います。

援をお願いいたします。

野球部活動報告

二年連続二回目の優勝を

手作りのスコアボード

監督吉 本 伸 豊 年

かりでありました。どこのチームと対戦しても、互 大季四国大会県予選は、対高知高戦二対○の完封負 け、春季大会は対安芸高戦、三対二で惜敗しました。 で選手権一回戦、新設校の対高知南高戦では、十対 一、七回コールド勝ちをし、二回戦中村高戦は、二対 一、七回コールド勝ちをし、二回戦中村高戦は、二対 一、七回コールド勝ちをし、二回戦中村高戦は、二対 一、七回コールド勝ちをし、二回戦中村高戦は、二対 一、七回コールド勝ちをし、二回戦中村高戦は、二対 一、七回コールド勝ちをし、二回戦中村高戦は、二対 一、七回コールド勝ちをし、二回戦中村高戦は、二対 一、七回コールド勝ちをし、二回戦中村高戦は、二対 では、対小津戦三対二の長対、長後の夏 大き四、大会は対会といる。 大き四、大会なゲームは、 大き四、大会なが一ムは、 大き四、大会なが一ムは、 大き四、大会なが一ムと対戦しても、互 大き四、大会なが一ムと対戦しても、五 大会に対します。

持ちで取り組んでいます。
歩、あと一押が足りないので、なかなか勝利につな歩、あと一押が足りないので、なかなか勝利につないることは確実であります。しかしながら、あと一角に戦うことができる様になり、地力がアップして

新チームは、現在二十四名と近年になく大所帯でから、練習に励み秋季大会では、練習の成果をいかあり、有望な選手もいて楽しみにしています。これあり、有望な選手もいて楽しみにしています。これが致します。

りました。

その一つに、日本一ともいえる、手作りのスコア その一つに、日本一ともいえる、手作りのスコア がり、新聞にも掲載され、大きな反響をいただきま がり、新聞にも掲載され、大きな反響をいただきま した。地元の人々はもちろんの事、部員一同大いに というさい まずした。地元の人々はもちろんの事、部員一同大いに おっています。

そして、二つには、倉庫も完成し、設備も揃ってきたことです。これらは全て、須工野球部勧進帳之らばと、有志の方々が心よく引き受けてくださりました。本当にありがたく感謝の気持ちで一杯です。三つめには、高知支部より、この度 "須崎工業高三つめには、高知支部より、この度 "須崎工業高等学校野球部応援団の唄"と "須工野球部勧進帳之時" を贈呈していただいたことです。

ここに二つの歌を紹介致します。
一勝の活躍が一番であります。また一から出直し、新しい歴史を開いてまいりますので、今後共よろしくお願い致します。
とお願い致します。また一から出直し、一勝の活躍が一番であります。また一から出直し、

応扱マン、オーエンマン 先輩ゆずりのチームカ 本当にお弱い野球部は 応扱マン、オーエンマン お金がないかと下を見る 今日もとぼけて狙るのだ おいらはそれが分るから 勝て勝て目うのはそりゃ無理よ とほけ笑餌で今日もいく おいらは須工のおどけ者 落ちていなけりゃ横を見る 真っ赤な目鏡にチャイナ服 四 それでも笑って町をゆく 応扱マン オーエンマン 須工野球部火と燃えろその日の来るまでやり抜くぞ 甲子園の土を盗れ でっかい望みじゃないけれど 夕陽が落ちて日が暮れて 応扱マン オーエンマン 須工野球部チクとやれ ツバメもお宿へ帰る頃 度は踏みたい踏ませたい

(現場工業野球部の 大空間の声楽は 大空間のが風と 大空間のが風と

目にもの見せよこのゲーム

須工 須工 愛する須工その手で勝ち取れ球男児勝利の女神と栄光を勝利の女神と栄光を

四

須工野球部勧進帳之唄

祖って攻め勝て若人よ三、戦い抜くのだ堂々と 拾身でやり抜けこのゲーム 福永徳七郎 唄 横川 寛木

期间窓会「陸船会」へ、

この曲は須工商造船

樹林 森 桑 川 寛雅 久 岳 水 慈 敬 岩

福作作 曲詩曲

-13 -

昭和61年度決算報告書

62. 3. 31

			02. 0. 01					
	費 目	金 額(円)	摘要					
itti	前年度繰越金	147,149						
収入	入会金	462,000	2,000円×231名					
へ の	特別会計利息	808,740						
部	雑収入	16,062	仮入金8,357円を含む					
ᅄ	計	1,433,951						
	会識費	4,000						
			開校記念品代 54,000					
支	事業費	704,420	会報送料 259,420					
出			会報発行費他 391,000					
"	通信交通費	85,390	切手代外					
の	事務消耗品費	19,128	コピー代					
部	慶 弔 費	95,280	歓送迎会・丸筒(11,520円未払い)					
यम	支部配当金	292,800						
	雑費	11,793	振替払込料ほか					
	計	1,212,811						
	収	入 支	出残額					
1,433,951円-1,212,811円=221,140円								
〈特別会計〉								
終	費目	金 額円)	摘要					
終身会費	前年度積立金	19,140,000						
盘	本年度納入金	1,790,000	新卒1,510,000 旧卒280,000					
費	計	20,930,000						

監査報告

諸帳簿及び証書類等により監査の結果金額その他については相違なく、預金通帳・定期預金証書とも確実に管理 適正に執行されている。

昭和62年5月27日

昭和62年度予算(案)

	費 目	金 額円)	摘 要
,,,,	前年度繰越金	221,140	
収	入 会 金	460,000	2,000円×230名
ᄉ	特別会計利息	574,200	四銀22,000 農協552,200
の [雑 収 入	5,000	
部	特別会計より繰入れ	600,000	
વવ	計	1,860,340	
	会識費	30,000	
			開校記念品代 54,000
			会報印刷代 345,000
支			会報送料 260,000
~		1 000 000	振 替 用 紙 13,000
	事 業 費	1,223,000	封 简 16,000
			調 査 費 25,000
出			記 念 碑 500,000
			その他 10,000
n	通信交通费	80,000	切手代・通信料・他
"	事務消耗品費	30,000	コピー代・他
	慶 弔 費	100,000	歓送迎会・丸筒・他
部	支部配分金	337,800	関東32,000 中京 24,400 近畿59,00
ᄪ	文的配分並		高知95,000 須崎117,800 幡多 9,00
	雑 費	20,000	振替払込料・その他
	予 備 費	39,540	
	計	1,860,340	
**	費目	金 額(円)	摘要
身	前年度末積立て額	20,930,000	
終身会費	一般会計へ支出	600,000	
女	残 髙	20,330,000	

国宫横広梅竹松矢和 京山 海瀬原下本野二 身 野田味広細遠坂宮武下梶北大山岩梅広吉田片近張甲浜片堅浜片池消中梅井小本所元瀬木藤本本内元原添野崎山原瀬岡所岡森 藤口岡田田岡上藤越原口松 会 即三三昭 二正 昌逸誠健純義安康孔亞定命和泗 義太速等孝萬良宵 治章 昌男夫一坦郎昭悟良志幸児輔龟成一建延夫長夫海茂夫郎雄三人男德行務郎洋 昭和 六十二年十 納 浜堀宮岡川広大森岡山谷島楠大中森戸刈笹渋小龟柏大山松吉寺**和** 田渕崎村添瀬藤下崎中 崎本崎平下梶谷岡谷谷山井川田沢村田二 内 川大岡高面崎林橋 俊健昭嘉 益春範正芳 正栄徳桂茂雅 邦浩和秀 真 一三男夫泉理富茂夫義樹黎昭郎喜郎富幸勲治三夫有雌也三功 者 二昭 卓郎夫忠 · 月 十 岡岡和市吉吉岡島竹野吉武和 添林田川川村田崎内瀬本内二 中国山高谷片古川高岛和谷枝中橋口田谷村橋崎二 堀 大 柳 上 川 西 金 藤 見 田 原 東 越 森 子 戸 B 現 家懸富泰貞春倡 正 静德三 達市夫輔造政雄茂一勇夫雄年 武和民佐袋雄昭志夫男吉雄葳平淮 在 高浜柳梅森 堀福堅中松德川大古王傍上谷竹鍋奥下北橋田瀬下 内島田平湖広村崎谷子士岡 村島代村川 二四良和久昭孝雄利定普 正和忠親武典惟重 良郎郎輔男敬佑臣男夫雄三実 替一雄義雄男和孝恭昇輔 大谷岡 昭正民 多塚山岡森汲武長高大上近浜大西北池 秋横森西雪田 田本崎田岡田政山野野田森田崎内川 沢田岡田二 坂 大 須 島 梅 加 横 堅 橋 田 岡 横 武 来 津本 原 内 岡 原 藤 山 田 田 井 村 山 石 女 野 穷 機川 寛水 梅原 弘志 梅原 弘志 森山前前金田斧津田伊藤三中川堀井森福石 崎田田子中山野上藤田本嶋村見上田岡二 本定瓜耕芳良光<u>嘉</u>圭孝八正孝忠和健昭 本定瓜耕芳良光<u>嘉</u>圭孝八正孝忠和健康 , 本雄德男一夫平男三助由郎勝良孝三弘男 昭七年 幸教哲彰穣 浩好 寿義倡雄司史彦作稔遺士栄範則男 戶 岡 渡 西 高 上 江 矢 野 武 上 長 吉 中 和 田 本 辺 森 野 田 渕 野 並 政 田 村 野 三 谷山浜横矢松北橋上古竹中中若田田和 崎 山野本村本田味下川 瀬村村二 博富好消勝忠 盛智忠哲秀聖竜武泰之男宏幸郎雄靖幸明孝男市徳雄夫雄 殺年 岡佐高田下市山倡野鍋浜安浜高小宮浮三島吉谷藤川奥正和 添藤橋中元川口高島島口井口橋野本田浦中田 田渕田延三 谷松細田坂矢西竹横角安岡田木所井野森内山西並 光学 章 直隆 利健 宥武彦夫朗介正康一一助彦 安森 北 干 僑 松 木 柳 佐 岡 梅 岩 小 矢 斉 弘 福 宮 在 松 三 二 大 二 三 松 窪 塩 植 中 松 植 高 井 光 添 頭 田 井 村 瀬 2 林 原 本 原 野 藤 田 井 崎 木 村 本 宮 崎 見 宅 下 田 見 村 西 村 田 橋 野山渡瀬下辺 岛 竹 中 岡 中 橋 大 高 佐 豊 山 西 柳 中 中 昔 福 西 西 内 川 田 山 田 崎 橋 々 島 下 川 本 川 村 野 井 森 手 中中江市西氏弘堅沖田西竹山和村井口川森原松田本村村村崎三 藤米野村田口 正 早佳幸昌四一勝夫紀正身年 幸長精寿和章隆 堯仁 光增 靱 花 彦 弘 志 幸 毅 弘 利 元古宏 \equiv 重 憲 春 栄 司 夫

品森山梅堀山浜田中東福松石中尾吉市坳中西横鎌竹中高武岡田下原田本口村村 富浦川川崎村原田平森田倉崎平橋森三 岡山山光岡岡田橋明大田岡崎原 本村田神窪 広一次哲 皓忠 任英 子彦男雄宏男隆宏則稲 下佐吉黒片 奥谷 大吉山中竹山津渡高小鎌大山刈州元竹原岩 岡島岡崎村崎平村中野辺橋室倉原崎谷三 藤田千下江西上岡消島村中和田村頭川口森岡崎水津上村三 原 和賢且が文楯利伸繁公義正七明児典章夫夫夫高雄夫栄博年 章福净雄正武 健忠之 慈精重昌寿 貞政 康茂敬 馬已二延宣勇夫士彦英史利英彦 煎夫消勉夫正 川上竹中橋島土友野梅上福植光竹和 渕岡村城本崎本永瀬下野井田原内三 坂橋山今井畠藤下山岡市前白安市奥田田宮下竹本田野城上中原元崎林川田石井川代村村脇元崎 輝照宏一勝武 昭皓弘一 寿直正人 夫雄文人利男豊三二育男通一己英年 消 俊 哲 戚 紀 三 忠 映 悠 忠 泰 一 一 義 征 耕 勇 泰 俊 夫 夫 嘉 雄 男 雄 謙 宏 男 臣 修 志 士 利 幸 功 夫 作 三森吉藤佃上市吉松小下及沖河市西岡小井苅山和本沢岡原 野川野浦笠元尾 野川川林畠上部本三 芝岡茨明横大福中矢豊田中鬼西池林木神山崎井平野田野岡頭森 原 稔安 膀修 正益茂旅道雄良英公政敏康耿幸勝九 彦則隆征夫洋三世彦夫弘司二通博子雄弘介子幕年 昭洋² 型 勝 秀 三 茂 範 茂 敬 三 武 一 助 夫 嘉 志 夫 男 明 幸 悟 光 博 男 光 山在笹西岡玉池长渡正木津和本木本森林川田谷辺木村野四 森片武岡市上松 真森岡合野浜崎石新前内高浜片久大地田岡田林川田浦辺沢 田村口山黒田田岡橋崎岡川崎四 部 弘 照 充英 良達俊正長正 — 幸勇範夫隆一雄夫俊生雄隆年 邦親秋滕文康 文 元直 太明和文 哲演正 豊愛闘人三雄文正晃男弘宏信博郎洋男雄 祭夫良利章明 津笹吉真中岡田小下邑田竹**和**野岡本辺居村村松八田村内四 広味金谷山山高下西池竹**和** 瀬元子岡本下木元森田崎四 木 直俊 直一 良栄広収貞三記一級三郎博介治利一男年 和 浩 宽 夫 微 生 男 栄 男 嘉 文 彦 黑山箭中岡片**和** 石崎野屋本岡四 山野横岡小下和本島畠村野谷四 若吉 藤 岡 松 山 西 石 玉 高 中 松 下 西 和 林 永 川 村 田 本 森 村 川 橋 野 浦 元 森 四 畠川和真片今 中上田辺岡仲 道鶴弘滕道吉五明一明治明和年 中大津橋田谷三前井出広堅西和小和山塚野田村脇宮野上来瀬田山田田四 宫森宫尾国梅古中小佐藤**和** 崎下本崎沢原谷野野々原四 戸日蛭橋横佐栄小 梶浦子田山竹 田 原十 多 繁 型 速 洋 安 消 幸 秀 文 宏 健 苺 府 拓 孝 八 雄 稔 男 二 男 次 弘 忠 男 幸 三 幸 一 夫 幸 年 **嘉津淳辰寿節正道** 彦夫司巳彦男彦男 藤森本中竹中田和岡 田城崎野村五 石上吉安村仲 篠中和田田田田田村原城五 森柳大中弘岡吉大氏近古 川森浜石中森林和本崎村田村岡塚原森谷田下田本井田 _ 四 順十 + u 晴一一 哲佳宏 健裕恭一章倡正士賢师 英志祥孝也洋海厳一司啓福博男士夫一郎 遊安浩徳茂晴鉄**年** 稔良明三治博夫夫 協議山山中遠小岡市山森西新小小大田浜西中石丸松西高下川柳松西谷宮西川岡岡大和田田下岸山山協田原下光田改野野崎郎口村屋川岡岡森橋元村瀬本村岡脇村上田 埼玉 大 川三 十 哲友任孝安正恪郁正一輝喜一浩千孝伸順倡 早俊世新 喜饒幸 孝潤嘉德益知昌二臣二陽益龟司兑夫浩夫夫夫富史雄広彦一之忠男一也市盟行次宏晃豪也正秦男想秀則年 芝門池橋海 田田田地

機 朝 久 奥 高 楠 明 松 又 川 岡 山 西 小 門 浜 安 宮 片 足 山 田 堅 片 岡 山 北 種 宮 岡 細 林 川 坂 大 大 山 松 詰 日 岡 田 橋 瀬 神 本 川 西 崎 添 本 野 田 田 並 谷 岡 達 本 中 田 岡 田 崎 添 田 地 添 木 上 井 崎 野 崎 本 西竹西大江奥保片岡山森岡乾柏市岡浜尾浜岡大鸣間斧長海中岡高山竪明福芝南明津広村林岡崎渕崎木岡山崎光林 井川村 崎口崎崎崎鸣山山治原本橋崎田神井 部神野畑 裕一三好功秀利雄計幸 博幸啓消賢正保修 幸 和 勝和明広孝 浩遠哲由洋正 浩友雄明——次也児宏利出幸一助郎作人雄司明雄勉久喬彦男雄之平消二也人喜稔文修幸 森 田 山 岡 三 渡 田 市 竹 隅 田 谷 馬 馬 山 佐 宮 片 武 弘 小 山 浜 矢 大 井 山 山 松 高 森 髙 浜 岡 吉 光 中 崎 林 井 辺 中 川 内 田 所 脇 場 場 崎 々 崎 岡 内 田 松 添 田 野 原 上 口 本 尾 橋 光 橋 田 村 川 朝和比五 5条祐介 4 中四年 木 林林 橋 西 西 鍋 中 長 田 柴 島 川 門 堅 梅 井 市 吉 森 森 宫 松 広 林 林 浜 間 南 徳 道 田 佐 佐 坂 大 大 今 安 田 村 森 岛 村 門 上 ら 崎 沢 田 田 原 上 川 本 光 下 崎 浦 瀬 ロ 部 広 家 辺 竹 竹 本 原 崎 橋 藤 由 0 尊 伸 典 文 幸 一 起 和 瓜 叔 伯 的 英 和 俊 飽 敦 忠 公 浩 秀 栄 永 弘 智 芳 雄 和 明 保 金 義 利 定 英 野 秀 輝文 一 久 広 二 弘 夫 宏 浩 伯 一 子 二 博 男 一 志 則 浩 明 徳 彦 正 茂 一 文 二 寿 良 次 造 敦 也 浩 二 二 広 英 高 笛 桑 小 岡 吉 横 山 宮 松 前 堀 林 浜 中 戸 津 谷 谷 髙 髙 坂 片 尾 奥 大 戎 梅 梅 馬 植 植 島 山 山 森 松 広 橋 岡 瀬 田 本 本 山 岡 地 本 田 川 田 越 梶 野 脇 口 橋 橋 本 岡 崎 崎 川 井 原 原 諸 田 田 崎 崎 口 光 元 瀬 須 竹高佐堅 岡石 吉森 明 松松 西 及 長 中 田 谷 竹 須 芝 笹 北 堅 小 大 衣 上 山 矢 森 松 西 及 中 中 辻 田 谷 内 橋 藤 田 本 田 田 神 田 浦 田 山 山 田 部 内 内 崎 岡 村 田 野 野 斐 田 本 野 光 田 地 山 野 岡 本 村 中 広和孝光典智一孝俊定 孝正貴倡智 裕義幸浩利一則育義宝隆靖繁弘孝朗真倡久 優志也光弘久欣彦郎市男浩基文造久弥昭貫二男浩司耕宏彦生文宏浩弘広行雄徳司行良 松松広浜浜野能西西長中辻近谷高高柴三酒甲尾大伊井麻街背市坂浦瀬田崎島見森森山山 沢脇野橋 宮井藤崎崎藤関田木木五 刈沖山柳西中中田田 谷吉川本 村谷村中 眘 功伸幸幸敏荣 消博治 安章一幸唯広 則章明倡広直正高伸五二人男一夫生志章夫 誠 茂得友仁夫夫倡隆彦人彦彦幸道志雄二年 俊率心孝元澄智一英文一広秀夫行彦 英夫 今石渡横矢矢山山森森松野能西西西梨县中土高高高下佐桑国刈片冲大吉渡山山森宫游播田辺山野野本崎岡 田岛見村森森 山田本野橋木元々原沢谷岡 崎岡辺本崎田脇渕 木 ц 田竹竹坂酒近楠木片尾岡岡大大大市八森松松松藤中黒織小大山山山森湖弘西西商下植村田内本井藤目下岡崎村 野崎崎川木下本田浦本内原田田川脇下岡 渕瀬森村橋元村 高高笹笹酒岡大今麻背和橋橋岡岡井林崎城岡山五 奥 下 山 宮 中 山 広 明 壬 久 浜 中 中 津 門 会 大 岩 山 山 細 久 浜 浜 橋 中 田 田 中 本 村 本 瀬 神 生 原 田 脇 平 野 脇 所 崎 佐 下 崎 川 岡 田 田 田 山 隆賢義 正秀雄 寿六 彦治人 厳悟 靖二和介行年 忠敏 跳 淳一 順 和 良 一 三 光 兄 孝 一 辰 真 敏 和 和 源 孝 幸 和 道 浩 志 彦 二 一 也 一 弘 房 光 生 啓 志 昇 司 昭 男 一 弘 己 久 井 善 俊 典 明 至 浜橋野西西南中中戸田武竹高白下笹片入出吉山森水松松堀長橋西仁中中中徳道谷武竹口田本森村部屋 田村市崎橋木元岡 岡交間門下田口本尾部谷田森尾山村内広家脇吉村 ĬΪ 借博健太孝 剛雅英惠 義賢安久宗昭文英 和広城蛸正 孝忠常則智光和丈政秀勇弘一文一志之隆彦彦之介裕浩二弘稔温典男喜学幸幸二浩一陈幸広洋夫彦親則典喜文政

佐笹坂川堅大岩小吉毛藤田谷竹斉尾市山味政西田下小楠岡依山山川森森森明宫宫松和 条岡元上田石崎西村利原村 内藤崎川本元岡川中元田岡崎光下崎渕本沢 神地崎本木 島敬行稔良高孝完喜圭和隆隆利直遂其浩野幸敏哉 浩章光広正敏 一宗聚隆二倡健正 男助広明一志明司富志雄憲宏夫文也貴士一喜久治貞司弘臣悦一弘章久幸偕志男一三仁 井池池和上田上五 里森松 堀 広 橋 中 竹 高 田 蟡 坂 楠 奥 大 山 山 森 真 松 福 林 橋 野 西 中 中 中 寺 津 高 下 沢 見 田 瀬 本 平 内 橋 井 内 口 瀬 田 西 崎 岡 鍋 田 本 田 島 村 村 平 島 田 野 橋 元 村 明 一和真栄洋良英兼正広哲明 治民三貨學 消費利和正範伸俊英隆 秀節博利弘夫默彦宏一二史治樹可徳明也久弘二雄隆盛典隆昭二彦史彦記雄彦明博勇做一夫文伸倡 縣 橋 中 戸 谷 高 渋 楠 国 北 片 岡 大 横 山 山 山 矢 森 森 森 宮 味 丸 藤 藤 弘 浜 西 西 中 中 遠 下 三 笹 坂 近 田 田 平 田 口 橋 谷 瀬 友 村 山 村 野 山 本 中 下 野 光 下 谷 元 岡 原 田 田 野 森 村 村 沢 山 元 宮 岡 本 藤 忠敦 佳 勝 直 寿 博 金 裕 正 郁 祐 国 雅 倡 直 秀 博 隆 敏 浩 拓 寛 一 幸 正 忠 昭 文 一 康 饒 時 稔 徳 男 彦 廣 也 一 久 勉 徳 孝 望 明 夫 勲 治 己 平 雄 哉 章 彰 史 雄 郎 二 磨 樹 嘉 男 文 義 洋 男 起 志 司 仁 下 笹 坂 川 尾 奥 岡 大 江 横 山 山 村 松 前 藤 広 野 奈 戸 寺 田 谷 谷 田 千 桑 堅 竪 楠 山 矢 安 森 森 宮 宮 松 元 岡 本 島 崎 崎 崎 川 西 山 中 崎 上 本 川 本 田 島 路 田 村 村 岡 中 崎 原 田 田 岡 下 野 並 光 木 本 地 村 繁英 博雄 隆哲修 洋 博 浩 政 正 男 樹 幸 成 二 也 幸 央 斉 一 明 帝 史 逝 假理佼幸道吉 光広浩英敏 雅幸一 昌 幸浩利 浩二子二治程辛炼使幸司雄司正広次人修道仁治文邸聖二 西津谷谷高小桑楠川奥岡岡小大梅安上和吉山山森森三丸松渕藤久浜西西西中中谷谷多川野脇 岡泉原瀬村田村崎田崎木藤田田井崎岡本田本岡岡山原岡中森森川田鳴脇本田 保 幸幸智划政和英弘二彰典学俊和浩省雅秀成 ——理幸祐和民一 裕康和擁浩郁男晃修広男婚広和宏雄幸仁仁成浩一正之二文男男茂郎貝陽介夫也彦工仁之洋之一統夫 芝山 芳 結 森 明 宮 松 松 堀 藤 福 福 原 浜 浜 西 西 崎 川 城 本 神 尾 本 田 部 崎 原 永 田 田 口 森 村 邦和演伸賢利奄明寿明新靖靖浩恒賢勇博彦久之二生則生人久弘一幸之文広一志文 政 前 南 德 戸 田 武 竹 竹 高 高 関 下 三 佐 桑 楠 鎌 片 大 尾 梅 市 石 池 吉 吉 山 山 矢 森 本 明 松 政 牧 藤 浜岡 田 郡 広 梶 中 田 内 内 樒 樒 本 元 宮 々 原 瀬 倉 岡 崎 野 原 川 川 田 田 岡 本 崎 野 田 木 神 山 岡 野 田 町 慎隆知 瓜 正 雄 幸 英 慶 国 義 治 志 秀 章 由 健 文 晃 博 昌 浩 浩 健 輝 忠 宏 謙 忠 哲 広 使 忠 二 志 久 太 和 二 男 雄 三 広 明 雄 健 闘 郎 行 広 官 児 章 彦 之 孝 章 二 靖 淳 一 男 則 明 二 男 雄 宜 央 裕 文 伊在足 渡 横 森 真 弘 浜 野 野 中 中 戸 遠 竹 古 国 北 上 片 山 林 橋 二 田 高 斉 倉 国 久 門 岩 秋 渡 横 柳 森 尾 木 利 辺 山 光 辺 田 田 瀬 島 越 川 田 山 内 味 広 村 北 田 崎 田 宮 村 橋 藤 橋 本 保 田 崎 本 辺 山 瀬 田 世桑国 菊 刈 岡 猪 石 石 吉 柳 森 森 森 三 水 保 浜 羽 西 西 仁 奈 谷 竹 白 笹 楠 木 北 川 小 大 植 岩 井 市 池 岡 名 広 地 谷 崎 野 本 井 岡 瀬 光 田 田 本 田 木 町 方 村 村 木 路 岡 下 木 岡 目 下 川 田 谷 崎 田 本 上 川 田 勇典 隆 伸章消雅政正孝 成英俊公民栄聴 嘉紀勝孝雅和健健栄孝 富良 世人國宏 越生 顧 司 洋仁 但 忠 史 夫 男 明 忠 人 一 一 男 雄 一 史 正 彦 雄 己 二 彦 久 児 央 之 幸隆 章 夫 高小北川片加岡岡江梅石安和橋田添田岡持村林崎原元藤五 橋 吉 松 山 山 山 浜 浜 長 野 中 中 中 津 田 谷 谷 谷 竹 竹 竹 田 高 下 本 門 坂 本 本 口 村 田 谷 村 山 村 沢 野 村 脇 岡 岡 本 林 嶋 上 橋 元 Ж 義倫 浩正真庄 春和幸倫 博力 彦 弘 寛 幸 人 人 二 仁 仁 雄 忠 貴 年 優正幸勇時 寿忠 越福 浩功 英定 博寫定 哲 俊 義 利 啓 広 消 賢 二 元 宏 助 男 喜 士 人 弘 明 司 助 二 文 彦 夫 也 治 郎 一 介 明 広 司

原浜西中近谷竹高高下下芝桜久北片小織岡岡大横横柳森森宮 英松坳正藤広久 液浜西县口森山沢口田橋橋八元 木保添岡野田平林野山岛野本田地岛岡本木原瀬岡田崎森野 賢弘 博秀 敏文裕(健紀睦雅陽 和秋 一幸 康功伸遂宏 隆雅克 和 三耕喜卓也行斉幸行敏幸男行一夫夫弘一司教広薰意一明生起郎雄明明二勝史定人剛徳一仁也修 戸谷瀧高菅小古久片小奥岡岡井市石資松松濱中樹森中中川岡大大石樹山森森正古二藤梶口平橋野松岛万岡鳴野林崎上川川木坂岡田畠山田平越田崎西西元田崎部田木谷見沢 高型貞昌勇好學陽一利淳學雄博英生雄伸哲 浩 芳枯雅 博秀良 義真正勇明 守広司行学人彦幸介郎広一行一文明雄二彦由篤行豊和成夫浩平之明明明久介利一彦浩人 高 正 古 浜 液 液 野 西 西 戸 寺 谷 谷 白 三 桑 奥 肉 大 柚 岩 今 市 市 石 吉 山 山 明 松 松 松 前 藤 福 平 液 中 野 木 谷 町 田 口 本 山 村 梶 村 脇 岡 木 宮 原 代 林 崎 原 川 原 原 川 川 野 中 崎 神 本 田 岡 田 本 原 井 口 山 庄元博寿高幸 功光久泰弘洋昭正丈一昭真則真隆浩卓忠正秀宜智 雅孝 雄浩洋幸司和幸治德雄等一明雄彦——二裕司也二一文帝二幸水司剛一幸志剛和浩司理—二一広 山明三堀古原橋能西名中中出田種谷武武高庄芝佐笹国川刈奥大梅井井市池和崎神浦川橋田田見森川城岡来村田脇市田野野 竹岡広島谷田崎下上上川田六 弘 圭 正 佰 和 雄 宗 和 長 吉 伸 保 典 疎 改 浩 幸 健 健 敏 浩 瓜 浩 益 越 糜 栄 儀 澄 潤 秀 年 通 介 文 孝 勝 仁 二 明 夫 康 雄 昌 洋 一 正 美 二 三 二 二 永 二 仁 司 功 生 一 彦 一 幸 男 一 仁 商片小小大大吉吉横山山森森真浜野西西中中津田佐佐斉刈加金門尾大梅井石池池足山 稗田野沢原崎門岡山下崎光岡辺田々森村山城野村々々藤谷納子田目崎原上黒野 利本 川 宮 木木 個價季直一賢卓一政健司 敏良浩浩 和政瓜喜的,脸哲真祐利安厳峰假蛸型雄忠幸和 彦孝一樹郎一史守志一幸敦男治沿锡淳史人倡彦介透成也一介彦假洋喜一司章司癒一人 古 冽 藤 藤 藤 戸 竹 竹 高 高 高 偶 佐 坂 門 氏 岩 今 石 山 矢 森 間 古谷 山 本 田 田 村 田 橋 橋 野 田 藤 本 田 原 本 城 山 本 野 下 鸣 谷 北上竪尾小岡岡大大足和岡領田崎川本林山川建六 勝克一其祐正邦 和裕也敏德一正確未承彦 前前野西西西鍋中戸辻田谷下斉川川岡大横山森松広早西永中中千竹竹渋笹久川片小奥田川岛森村川岛城田 村脇園藤添崎崎崎山下下田瀬渕 野脇野頭本下谷岡保村田野田 鎌 大卓一映一隆 征信里義晃宗 秀昭敏正弘誠治真治明治竹英 勉八二晚二郎治朗可昭志仁弘一剛明二宏和明司彦治正德史一幸修 渡山山山山村松松正 細藤久西田竹竹高下笹酒斉後 黑菊堅 小岡 大江枝伊市山山安森松松 邊本本崎川上本下木川原岡村村中内橋元岡井藤藤原 池田野村西渕瓜藤川崎岡並部本岡 康孝 洋健和枯頗骨哲和真康直浩修 菩 英雄 喜裕武 週 李英貴光良高宏卓努弘宏泉泰一吾弘文水也也能一浩人二治健仁滋人二尚浩司朋献二献行身裕生生央幸治

高 川 刈 小 尾 岡 大 大 氏 岩 井 池 吉 横 山 山 村 三 松 松 古 浜 西 西 西 田 禹 俄 田 谷 沢 崎 林 崎 勝 原 本 上 田 田 畠 脇 川 上 井 坂 井 田 田 森 村 川 村 橋 和田 大 洋 正栄 城 俊智 勝雅 修 公 博希 武 栄 一 一 和 幸 敏 英 幸 明 賈 義 和 健 助 昌 三 條 彦 二 也 作 之 菩 雄 久 務 洋 知 宽 佰 悦 敏 彦 作 幸 洋 英 良 彦 児 生 久 太 賢 幸 司 浩军 林浜八橋野寺田高高高下下坞坂喜門井井石池麻吉山山山矢村明田山本中村邊橋橋谷元元崎本多田上上元 田田中川岡野上神裕 誠隆——保好高比 祥光和賀利裕浩義慎弘正義雅 隆博鴻一勉司友也也路和茂博毅可生也夫典可之一可幸幸彰由稔夫己里 西森 中 型水 和 数 和 数 和 也 配 强 。 三松橋橋本田田田 中中津竹 高柴 佐 國 川 片 岡 岡 氏 岩 今 伊 市 吉 森 宮 藤 林 浜 野 西 西 徳 高 下 坂 甲 村 川 野 内 野 田 竹 澤 村 岡 本 村 原 本 橋 藤 川 村 光 崎 本 田 里 森 村 永 橋 元 本 斐 和隱純啓 文卓武孝聖祥正 袋卓正高松亨宜忠大将 餓猛消雅學一芳朋勝隆正宏耕央宏一人茂雄也司児貴二人博久实和年志司泰司作裕学做治彦志哉治吉弘之彦一文造造 山本 内容 整野新一郎 本 大野 正也 羽中中中位戶坪津田谷谷谷竹高久北河岡岡大植岩今井市渡吉方村平居田田内野村脇口口村橋保澤添本林磯田本橋上川邊村 公由正健 修良窓 和 伸晃辞郎仁一修央降司博也学也彦 和 義 政 克 文 昌 修 雅 康 利 雄 和 智 也 雄 己 史 一 二 学 登 忍 靭

> 横 久山 岡 **康幸** 充

同窓会費 納入のお願

61

数年前から後輩達は、卒業の時点で殆んどの者が

うお願いいたします。 方はなるべく早い時期に、終身会費を納入下さるよ 同窓会を今後大きく発展させるためにも、 っていますが、

同窓生の全体から見れば僅少です。

未納の

糳の方々からも終身会費(一万円)を納入してもら

終身会費を納めてくれています。またそれ以前の卒

高知県立須崎工業高等学校同窓会会則

分九条

本会に名誉会長を置き母校校長を推載す

氷一○条

章総 則

十二 十一条 条 と称する。 本会は会員の親和、母校の隆盛を図るを 本会は高知県立須崎工業高等学校同窓会

目的とする。

十三 地域(職域)に支部を置くことができる。 本会は本部を母校に置き、正会員多数の

十二章事

オ 四 条 本会は才二条の目的を達成するために、 次の事業を行う。

(2)母校の発展に関すること (1)会報並に会員名簿の発行及び配布

(4)その他目的達成のために、 (3)会員の親和に関すること みなこと

氷三章会 員

オ 五 条 本会の会員は次の者をもって組織する。 1、正会員

(/)高知県立須崎工業学校を卒業した者 (|)高知県立須崎工業高等学校併設中学校を

卒業した者

(4)(1)(1)(1)に在籍した者で会長が推腐し理事 (八髙知県立須崎工業髙等学校を卒業した者

2、 準会員

3、特別会員 **髙知県立須崎工業髙等学校在校生** 会で認められた者

> 1/1/回に関係し特別縁故のある者で、 (口)高知県立須崎工業高等学校現旧職員 (/) 髙知県立須崎工業学校旧職員

才四章役 員

オ 六 条 本会に次の役員を置く 局長を兼ねる)・会計一名・常任理事若干 会長一名・副会長二名(内一名は本部事務

ť 名・理事若干名・監事二名

役員の選出は次の通りとする。

(1)会長、副会長、会計、 いて選出する。 監事は理事会にお

(2)理事は総会において選出された者および 母校在職正会員とする。

(3)常任理事は理事会で選出する。 役員の任務は次の通り定める。

才八

(2)副会長は会長を補佐し会長事故あるとき (1)会長は本会を代表しその運営を統括する。 は、その職務を代行する。

(4)会計は本会財政の運営に関し、予算収支 (3)事務局長は本部事務局を主宰し、本会の の企画および収支の執行に当る。 事業を執行する。

(7)監事は本会の会計監査に当る。 (6)理事は本会の重要事項を審議する。 ⑸常任理事は本会の常務を執行する。

が推薦し理事会で認められた者 **氷一一条 役員の任期は二ケ年とする。但し再任は**

才五章会 議

は前任者の残余期間とする。

妨げない。補欠のために就任した者の任期

かり顧問および相談役を置くことができる。

会長が必要と認めたときは、理事会には

オー二条 本会の会議は総会、理事会および常任理 事会とする。

氷一三条 総会は二年毎に開催し、必要に応じ臨時 に開催する。

氷一四条 総会は会長がこれを召集し、出席者の過 半数で決定し、可否同数のときは議長が決 定する。

 ソー 五条 (1)会長が必要と認めたとき 理事会は次の場合に開催する。

②理事の過半数の請求があったとき

オー六条 理事会は総会に次ぐ決議機関で次の事項 を決定する。

(2収支予算ならびに決算 (1)本会の規約の作成変更および役員選出

オー七条 常任理事会は会務の迅速円滑な執行をは (3事業の計画およびその他重要な事項 理事会に報告し、承認を得なければならな する。常任理事会の決定および実施事項は づき、直接業務に必要な事項を審議し実行 かるため、総会および理事会の決定にもと

21 -

計六章事務局

壮一九条 事務局の構成は次の通りとする。

オー八条 本部に事務局を置き、事務局長が統括す

2_、 会 計

1、事務局長

3、母校在職正会員

オ二〇条 事務局は総会、理事会、常任理事会の決 定に基づき必要な会務を執行する。

氷七章会 計

オニー条 本会の財政は会費、入会金、寄附金その

正会員は会費(終身会費)を納入しなけれ 他の収入によってまかなう。

ばならない。 会費(終身会費)は一万円とする。

オニ三条 本会の会計年度は四月一日に始まり、翌 入会金は入学時二千円を納入するものとす

オニ三条 本会は会計年度末に支部に対する配分金 年三月三一日に終る。

額を理事会にて決定し、翌年度六月末まで

附 則

に還元する。

昭和六二年六月二〇日改正。 五日改正。昭和五六年八月九日改正する。 和四三年三月一日改正、昭和五一年八月一 昭和二五年一月二〇日施行の本会則は、昭

ください。

各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明啓が必要なときは、法令の定めにより証明啓

県収入証紙は販売していないので、切手、又は現金 地からの申込みは事務手続に相当の日数を要します 相当する髙知県収入証紙を貼付してください。遠隔 出しなければなりません。(第二号十八頁の様式) 交付申睄啓別紙(用紙は事務室に備付)を校長宛提 郵便番号をお忘れなくご記入下さい。 を同封してください。 ので早目に申込みをしてください。又県外には高知 申鹋啓には必要事項記入のうえ押印し左記金額に なお返僧用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、

手数料は次のとおりです。

単位修得証 明 む 一通につき二〇〇円 一通につき二〇〇円 一通につき二〇〇円

成

送り先〒78須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三 **高知県立須崎工業高等学校事務室** 括(〇八八九)砂一八六一

ましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話 証明뿁の件につき不都合または不明な点等があり 一八六二







各支部の役員、並びに会員の皆様には、原稿をお願 にありがとうございました。 いいたしたところ、心よく原稿を送って載だき本当 第十二号の会報を、お送りいたします。

主体の会報となり反省いたしております。 今後につきましては、良い記事がありましたら事

況や感想等の寄稿を載せる予定でしたが、母校行事

会報の内容については、当初できるだけ会員の近

たいと思います。 務局まで、ぜひ直接お送り下さい。次の会報に載せ

尚印刷につきましては、須崎市内の笹岡印刷所さ

礼申し上げます。 んにお願いし、大変お世話になりました。心から御

会員の皆様の御活躍をお祈り申し上げます。 **事務局編集委員**

昭和六十二年十一月二十日発行

発行所 **高知県立須崎工業高等学校**

所 **高知県須崎市東古市町二番十六号** 同 有限会社 笹 岡 印刷 窓会事 務

印 刷